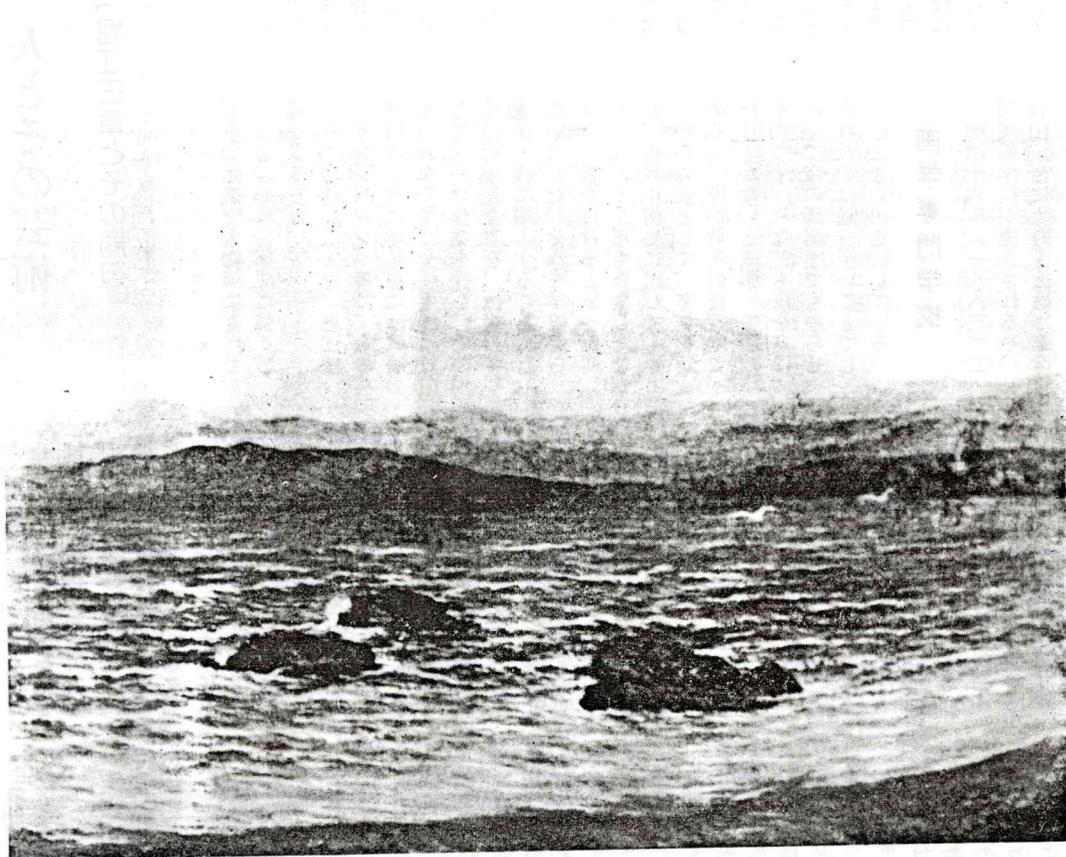


みる つくる がたる

VOL. 5 NO. 4

昭和53年12月15日発行
編集・発行人 市原 正夫

〒260
千葉市中央港1丁目10番1号
☎0472-42-8311(代表)



堀江正章「富士山」

観潮台

最近の出版事情を書店で感
じた。猫の本が意外に多く三
十種類以上もあった。ひとつ
の世相だろうが、私はこうし
た現実から猫を描き愛した画
家たちを思った。

なかでも私が関心に向けて
いる浅井忠は、典型的な愛猫
家の一人である。浅井の巨匠
としての評価は、明治二十三
年一月から二年余の、フラン
ス留学時代の画業で固定した。
私はこの時代の「浅井の原風
景」を追跡中だが、浅井はパ
リのアウニュー・マラコフの
宿で、一匹の灰毛の猫を飼育
した。チチーという名前で、
愛猫家ぶりは大変で、四十歳
を過ぎた男が排せつ物の始末
までしたという。その後、半
年ほど移住したパリ郊外グレ
ー村でも、赤毛のミミーとい
う猫とその子に目をかけ、愛
したことが浅井の残した『愚
劣日記』に見える。

日本近代洋画界の巨匠・浅
井忠の、愛猫家としての一面
はいまでもしのべる。浅井が
パリで買った陶製の小さな猫
の置物が、京都市の都鳥家に
保存されているからである。
猫の本から美術史を思った。

(高橋在久)

堀江正章 人とその芸術

企画展「堀江正章とその周辺」

生いたち

堀江正章は、安政五年（一八五八）に長野県松本市で二木末十郎の三男として生まれ幼時に叔父堀江伝十郎の養嗣子となり、松本開智学校に学んだ。その後、師範講習所に入學し、学業成績は優秀で、特に数学・理科に長じていた

工部美術学校

明治十一年（一八七八）数学研究のため上京したが、絵画に転向した動機は明瞭ではないが、生前「私は画家になるつもりはなかったのだが、学問する為東京に出て来た時、実際の人物がそこにいるかの様に描かれている油絵と云うものを見て、父母へのお土産に一つ之を習ってみようと思ったのだ」と語っている。同年十二月、工部美術学校に入學。はじめフェレットに学び、その後は後任のサン・ジヨバンニに師事した。サン・

ジヨバンニは、イタリヤ風の明るい画風で人物画に優れていたと言われ、堀江に強く影響を及ぼした。

その当時のことを、堀江は「サンジヨバンニ等は、今の学校のように学年毎には試験を行わないで、全校生徒に対して同一の作業を課し、その成績の優良な者を、抜擢して逐次上級に編入することにしていました。それで学校から卒業証書を授けると云った所が、凡そ十余年も修業したなら、世界中何処に出しても辱しからぬ者として、卒業を認めるが、僅か数年の修練位では仕方がないと威張って居たものです。私なども夜を日に繼いで夜の課業までもやらせられたのは随分辛いことでした。」と思い出を記している。

画学専門学校

明治十六年（一八八三）工部美術学校が廃止されるや、曾山（後に大野と改姓）幸彦

・松室重剛らとともに画学専門学校を設立し、「折角発達しかけて来た西洋画の命脈をば、是非とも維持して、将来発展の時機を来るのを待たう」ということになった。この塾については、「丁度大島工部大学校長は従前からの関係もありましたので、今まで学校に備へてあった器械や標本などを、個人として、私的關係で借用し、麹町下二番町に私塾を開いて自分達も研究し弟子共にも教えることになりました。希望者もなかなか多かったですのですが、何せ美術の研究というものは、その人終生の業でありますから、確固たる信念と秀抜なる才能との有る者だけを入れるようにしていました。決して門弟の多きを質らなかつたのであります。」と回想している。しかし、資金が続かず一年で廃校となった。

大幸館

堀江は、郷里の長野に帰り、松室は明治十八年に千葉中学校（現在の県立千葉高校）に赴任し、曾山はただ一人で私塾を開き、かろうじて画学専門学校からの弟子の育成につとめていた。曾山は二十五年

に逝去し、遺された弟子のうち和田英作など数名が原田直次郎や五姓田義松の門下に入った。しかし、なお四、五人の弟子が残ったので、彼らは協議の結果、堀江を呼び戻し私塾を再校することになった。二十五年五月、それは大野幸彦の名をとって大幸館と名付けられた。堀江は教授として毎週二回講義をし、門人中最も古参であった玉置金司が助教として毎日教え、学習院教授であった松室は顧問となった。

この塾での教授内容については明らかでないが、堀江は、三原色（赤・青・黄）の原理により明暗・陰影を描き「コバルト先生」と呼ばれていた。当時、我国では、浅井忠の作品に代表されるような脂色のものが主流を示めていた。しかも、黒田清輝がもたらした外光派よりも早く、黒田と同様の絵を画いていたのは、おどろくべきこととされている。堀江に教えを受け、その後黒田門下に入った岡田三郎助は、「私共が大幸館に通って教を受けた時、先生から色彩の配合については、何時もこっぴどく叱られて居たが、今にして思えば、それが

修業の上に非常に役立って居る。あり体に云うと黒田先生に就いて印象派の油画を教わった折に、別に少しの困難もなく、すらすらと呑み込んで行けました」と語っていたという。この話からも、堀江の教授内容の概要をつかむことができる。

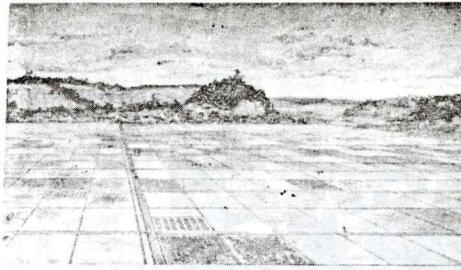
千葉中学校

明治三十年（一八六七）、千葉中学校図画教師として赴任している。これより以前、明治十八年に松室が就任していたが、二十一年に学習院に転任した後は、亘理寛之助が着任していた。しかし、亘理に郷里の仙台地方幼年学校への転任の話が持ち上がった。だが、校長が後任の定まるまで転任を認めなかつたため、堀江が弟子の窮場をしのぐため赴任してきたのが千葉県に来た契機となった。「千葉はまだ知らない土地だから珍らしそうだ、行ってあげよう」という軽い気持であったらしいが、結果としては逝去する昭和七年（一九二九）まで住むことになった。

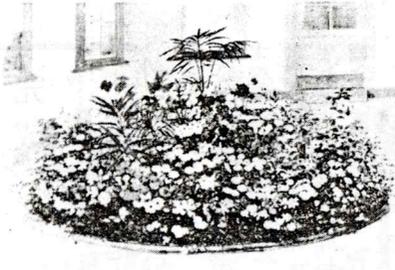
現存する堀江の作品は少なく、ほとんどが肖像画である。それ故、次にあげる三点は代

表作と言よう。

「耕地整理図」明治三十四・五年頃、香取郡多古町の耕地整理状況を、時の知事阿部浩の命により画いたもので、第



耕地整理図



室内草花園

五回全国勤業博覧会に出品した作品と言われる。

「室内草花園」明治四十四年の千葉県庁舎落成祝に開催された、博覧会に出品するために描かれたものと思われる。千葉県立園芸専門学校に通って写生したものである。

「富士山」大正十一年、堀江の千葉中学勤務二十五年祝賀会の一つとして開催された展覧会に出品されたもので、神奈川県片瀬にて図取りしたものと言われる。

会期・入場料等

○会期

12月7日(木)～1月15日(月)

開館時間は、午前9時～午後4時30分

休館日 月曜(但し、1月15日は開館)。12月26日、1月4日

○入場料 無料

美術を語る会

話題 「堀江正章を語る」
話題提供者 松戸 節三(前千葉県立美術館長)

遠藤 健郎(洋画家)

日時 1月13日(土)午後2時
会場 千葉県立美術館

中央の秀作を一堂に 第12回現代美術選抜展

本展は、東京で毎年展覧会を開く美術公募団体のうち、十五団体から推薦された受賞作品を中心に、招待・特別出品である。これらの団体展で、総理大臣賞や文部大臣賞受賞作品及び昨年度文化庁買い上げの作品などをあわせて、七十四点の絵画と彫刻が出品される。このうち団体展受賞作品は昨年の後半から、今年の前半にかけての作品であり、文化庁買い上げ作品も昨年中に発表されたものである。

団体展・グループ展・個展あるいは美術館・新聞社主催の展覧会等に発表される作品は、毎年おびただしい数にのぼっている。この選抜展に推薦されたものは、そのごく一部にすぎない。ここに選ばれた作品をとおして、今日の作家が、現代社会の複雑な要素の中で、真摯な現実認識と美術創造の仕事にとりくみ、さらにその可能性をも先取りしようと図っていることが読みとれる。

おだやかな自然観照、直截な造型空間の追求、心象風景や幻想世界の展開、社会的状況のアイロニーなど、作家それぞれに現代へのアプローチが試みられている。

展示される作品は、日本画十九点、洋画三十三点、版画六点、彫刻十六点の計七十四点である。

本展関係の出品作家と作品。

高橋規矩治郎

昭和五年千葉県生まれ。日展入選二十二回、安井賞候補

展二回、昭和会展出品、日展特選二回、光風会展受賞四回

現在、八千代市在住で千葉市立高等学校教諭。

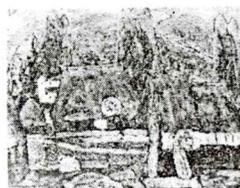
作品「漁港」は、不規則な岸壁と小型の漁船。風雨にさらされた屋根の低い家々に漁港独特の構成美と詩情を感じて、ここ十数年とり組んできたテーマである。



高橋規矩治郎「漁港」

京美術学校卒、日展特選二回。一水会委員、日展会友、現在東京都八王子市在住で東京学芸大学名誉教授。

作品「山村」は、芽茸き屋根の山村、早春の梅の花が咲



三橋文雄「山村」

き、土の匂いがただよってくる、そんな絵が画きたいという心情から生まれた作品である。

○会期

昭和51年1月9日(火)～1月21日(日)

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 月曜(但し、月曜祝日の時は開館し、翌日が休館)

●入場料

大人三〇〇円(二〇〇円)
大・高生二〇〇円(一〇〇円)
中・小生一〇〇円(五〇円)

()内は二〇名以上の団体料金。なお学校団体料金もあります。

三橋文雄
大正三年千葉県生まれ。東

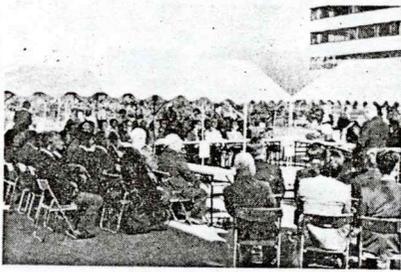
浅井忠像が完成

—本館の前庭に—

本県ゆかりの近代洋画界の先駆者である浅井忠の銅像が、浅井忠像建立委員会（茂木啓三郎会長）により、本館前庭で十一月十八日晴天に恵まれ盛大に除幕式が行われ寄贈されました。

建立の趣旨

県民参加による美術展として親しまれている県展が、戦後の荒廃した焼土から誕生したのが、昭和二十四年の十一月でした。以来、会場・開期



盛大に行われた除幕式



浅井忠像

・出品点数など悪条件を克服して、今年で三十回を迎えました。

三十回の意義を記念するため、美術会で諸行事が検討され、県展三十回記念行事小委員会により、三大事業が計画された。

- 1、県展三十年史の発行
 - 2、浅井忠像の銅像建立
 - 3、関係者の表彰
- となり、県美術会の事業として浅井忠像の建立が企画された訳である。

浅井忠の人となり

安政三年（一八五六）六月二十一日に、江戸佐倉藩邸のあった木挽町で、父伊織常明の長男として誕生した。七才の時に祖父と父が相続き死亡したので、家を継ぐとともに、佐倉の将門に居を移して、約十年間の少年時代を佐倉で過ごしたが、その間、藩の画家である黒沼槐山に花鳥画を学んでいる。

明治五年十六才の年に、

英画、洋画を学ぶために上京し、創立したばかりの工部美術学校に入学し、主としてイタリア人のフォンタネージに洋画を学んだ。

天分の画才が充分に発揮され、明治二十二年の第一回明治美術展に出品した「春敵」第二回展「収獲」はともに好評を博し、日本美術史上に重要な位置を示す作品として、昭和四十二年六月十五日、洋画では最初の重要文化財に指定されている。

日清戦争にも従軍画家として記録画を描き、後の「従征画稿」にまとめており本館でも「金州城南門外」や当時の軍服姿の「兵士」などが收藏されている。

明治三十一年には、東京美術学校教授となり、その二年後には、フランスへ留学し、特にパリ南東約八十キロに位置している、グレイ村に滞在したとき描いた「グレイの橋」「グレイの秋」などは代表作といえる。

帰国後は京都高等工芸学校教授となる一方、洋画研究所を開き、後進を指導し関西美術会の発展に尽くしている。

明治四十年に五十一歳でこの世を去っているが、日本美

術史上確固たる位置を占めた先覚者となっている。

建立の過程

県美術会の提唱を受けて、キッコーマン醤油株式会社の茂木啓三郎会長を代表に、副会長には勝又自動車の勝又豊次郎社長、川鉄化学の吉田浩社長など、財界・行政・学識経験者等十四名からなる建立委員会によって、募金を経済界の有志、更に一般有志にお願いするとともに、佐倉市の浅井忠顕彰会、千葉市、千葉県からも基金が寄せられ予定金額の二、五〇〇万円を上まわった。

銅像は、日展評議員で市川市在住の大須賀先生の力作で高さ二メートル四〇センチの立像であり、台座石は万成龍王石を岡山県から取寄せ、更に千葉大学園芸学部環境植栽研究室の安藤先生に依頼して、周辺の環境と合わせた植栽の全体計画に合った環境を造成した。

浅井忠の画業を顕彰すると同時に、銅像も屋外の芸術作品として親しまれ、多くの御協力を得た人々の結集として本館を訪れる方々に敬愛され、永く美術文化の象徴として、また誇るべき郷土の美術家とし本館の歩みとともに存在することになる。

「千葉県展30年史」完成

県展三十回記念行事の一環として刊行された同史は県美術会・県教育委員会・県立美術館からなる十二名の委員が選出され編集にあたった。

- 内容は、次の通りである。
- 県展三十年作品抄
- 第一章 県展前史
- 第二章 座談会・県展三十年の回顧
- 第三章 五部門の歩み（日

本画・洋画・彫塑・工芸書）
第四章 座談会・県展を支えた人々
第五章 県展三十回の記録

その他、県展史年表、会員名簿（昭和五十三年五月現在）などが載せられ、豊富な内容である。

希望者には実費頒布中
TEL 043-221-10

「夭折の画家たち」展を終えて

新たな感慨

タイトルにある「夭折」という、近頃では耳馴れない言葉に、特に若い人達にはどううけとられたであろうか。何とも計りたいことではあるが展覧会としては、青木繁・菱田春草など知名度の高い作家或は駿光・松本竣介など近年見直されてきている作家、また今まで小野幸吉、板倉鼎などほとんども知られていない作家の作品、加えて、日本画と洋画の両面からとらえてみたこともあって、それぞれに楽しんでいただけたようである。



どの展覧会もそうであるが、開催中・後に関係の方々から話しを伺い今後の調査・研究の手がかりとなることが多いが、今展では、板倉鼎の「パレットを持つ女」の作品に五十年振りに対面され、感慨をこめて話さっていた妹さんの姿など、印象深い一面もあった展覧会となった。

アンケートより

会期中に来館者からアンケート



1トをお願いしたので概観してみると、個々の作品についての感想が最も多く、次いで、本展で取り上げた各作家の個展を望む意見が大勢をしめていた。それだけ、短かい生涯の中に凝縮された青春の燃焼に強い感銘をうけたことが寄せられる。また、30代までの若い人達には、同年代のものが残した業績に対する羨望と啓発がうかがえ、同じ世代を生きてきた人からは各時代への郷愁と共感が感じられた。点数的には展示壁面の制約、或は遺作の少ない作家、佐伯祐三のように、他での遺作展とも重なるなど必ずしも満足してもらえないのではなかったが、それなりにじっくり味わっていただけたようだ。

制作の背景を

一人の作家が生き、作品が生み出されるには背景、つまり、その時代、流れと無関係ではない。そこで資料室に、各年代の代表的作品の写真を中心とした近代絵画史年表、主な絵画運動、傾向などの解説を展示してみた。

大きな時代の流れの中で、無関連と思われていた作品が意外なところで結びついてい

る。背景を少しでも理解し、これらの夭折の画家たちが果してきた役割が何であったのか考えてもらう機会の一つになったのではないかと思う。

「夭折の画家たち」展をみて

在日カルフォルニア大学東京スタディセンターのマッカラン所長より感想文が寄せられている。

「夭折の画家」展は、これまで私が見た近代絵画展の中でも非常に興味深い展覧会であった。もちろん、「夭折」というテーマであるが、それにもまして、会場に並べられた絵の深い内容に強い感銘を受けた。

日本近代絵画史の中では実に驚くべき程たくさん画家達が、若くして没している。

このことについてまだ詳しく調べてみたわけではないが、他のどの国と比べても、夭折した画家の数に於いて、日本に勝る国はないように思われる。この点について追究してみたら、日本近代絵画のひとつのおもしろい性格が判かってくるのではないかと、この展覧会を見て考えた。

明治期の青木繁を始め、特

にたくさんさんの大正・昭和期の画家達が展覧されていた。夭折という点では、この展覧会には出ていかなかった萬鉄五郎小出楯重もあげることができよう。昭和期の画家の中ではこのごろ頼みに脚光を浴びてきた駿光・野田英夫・松本竣介等の絵を見られたことも嬉しいことであった。それにもまして嬉しかったことは、これまで知らなかった画家達の絵に初めて接することができたことである。佐分真の「画室」という大きな絵は優れた作品で、この画家の作品をもっと見てみたいと思う。又、千葉県生れの板倉鼎の作品にも強い印象をうけた。来年度、千葉県立美術館において彼の個展が開かれるということでも期待している。二十一才という若さで死んだ小野幸吉(一九〇九―一九三〇)の力あふれるフォーブ風の絵にも感銘を受けた。特に「ランプのある静物」(一九二九年作)は力作で、もしこの画家があと数年生きていたならばどんな作品が生まれたであろうかと問わざるを得なかった。この間は、もちろん展覧されていた他の全ての画家達にも当てはまることであろう。

新収蔵作品紹介

(53年9月~11月)

寄贈

次の資料が寄贈されました
ここに厚くお礼申し上げます

- 東山魁夷氏より
- 東京魁夷作日本画「秋深」
- 峯岸魏山人氏より
- 峯岸魏山人作日本画「一九九谷」
- 浅井真氏より
- 池辺義家他作「黙語居士十三回忌追悼会記念歌他」

東山魁夷作「秋深」寄贈される

十月三十日、東山魁夷氏より、昭和五十年第七回日展出品作「秋深」(しゅうしん、一四九センチ×一九九・五センチ)の大作が寄贈された。

東山魁夷氏は、戦後、市川市にアトリエを設けられ、昭和二十二年、第三回日展に「残照」を発表し風景画家・東山魁夷の開眼第一作として画壇の注目をあびた以来、多くの作品が



峯岸魏山人作「一九九谷」

このアトリエから生み出され、現在日本画の第一人者として活躍されている。

今年の三月、在葉三十年という意味もこめて、「東山魁夷残照から唐招提寺まで」という展覧会を開催したが、県内外のファンを魅了した熱気があふれる会場風景は記憶に新しい。

以前より東山魁夷氏の作品の収蔵は望まれていたところであるが、本展を契機にその気運も一段と高まり、この寄贈となったものである。

「秋深」は冬の凋落を前にしての豊かに静かに紅葉する樹相を落ち着いた深い赤さでと



知事からの礼状をよむ東山氏

東山魁夷作「秋深」

らえ、昨年発表された「桂林月夜」の水墨画風な表現への過程を示すものともいえる。

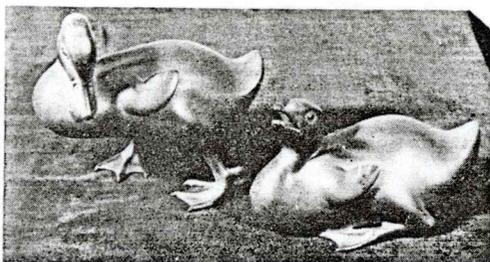
この寄贈に対し、十一月七日、市原館長は東山氏宅をお

美の泉

「鑄金」

津田 信夫

鑄金とは金属を溶かし、鑄型に流し込んで器物をつくることである。この技術に優れ、明治・大正・昭和にわたり、美術工芸の発展に尽力した作家に津田信夫



訪ねし、千葉県知事川上紀一氏からの感謝の手紙をお渡しするとともに、改めてそのご厚意を謝した。

が

明治八年佐倉に生まれ、同三十三年に東京美術学校鑄金科を卒業、三十五年同校助教教授、大正八年には教授となった。まもなく政府の命を受け、鑄金術及び金工術研究のためアメリカ、フランス、イタリヤ、ドイツ、イギリスなどを遊歴した。こうした体験の中で国外の新しい工芸の動向に刺激され、大いに啓蒙された。帰国後、それらの影響を受けた作品を発表し、新傾向の工芸を促進させる端緒になった。

その後、工芸の位置高揚と発展のために奔走した。例えば、昭和二年の第八回帝展から新たに工芸部門が設けられたが、その代表的な推進者であった。彼は、すぐさま帝展の委員に推され、審査員を数回、昭和十年に帝国美術院会員、同十二年には芸術院会員となった。

トピックス

● 秋晴れにめぐ まれた見学会

友の会との共催で行われた「美術鑑賞バスの旅」は、十一月四日(金)・五日(日)の両日、総勢五十名が参加し、山梨・静岡方面に秋の自然美と特色ある三つの美術館を訪ねた。

第一日は日本一美しい渓谷として有名な昇仙峡。ミレーに代表されるバルビゾン派の作品を中心とした山梨県立美術館を見学し、武田家ゆかりの恵林寺を見学した。

第二日はワイン工場をかわきりに、古沢岩見美術館を見学、富士五湖、白糸の滝をめぐ

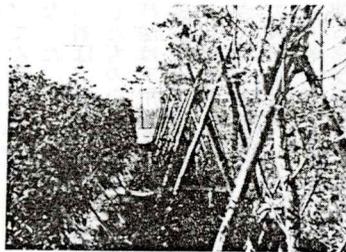


富士美術館を見学

ぐり、富士美術館にて名画を鑑賞した。

● 環境づくりすむ

十一月十四日(土)、昭和五十三年度郷土緑化秋季大会記念(千葉県土と緑の祭典)事業の一環として、千葉県緑化推進委員会より、ヤマモモ十本、ネズミモチ六十四本の樹木が寄贈され、その植樹式が行われた。美術館西側に植えられたこれらの樹木の成長がたのしみである。



ヤマモモなど植樹

● 県展解説会行われる

十一月四日(土)、日本画・書道について行い、十一月十一日(土)、洋画・彫塑・工芸の各分野について、部門を代表する作家の方々によって、本年度の傾向や審査評等をまじえながら作品個々の解説が行われた。

また十一月十一日(土)は

解説会に引続いて「県展三十年の歩み」と題して、美術を語る会が行われ、県展三十年の変遷や県展史に残る作家・作品等についての話し合いが持たれた。



県展の解説会

伝言板

■十二月二十五日から一月四日まで年末・年始休館となります。

■休館日は毎週月曜日ですが祝日の場合は開館します。但し、翌日が休館となります。

鈴木月潭(本名円治)氏 昭和五十三年十二月四日死去。八十五歳 日本画家

氏は、県美術館設立の中心的人物で、文学・美術志望者の育成にも尽力し、昭和48年に勲五等瑞宝章を受けている

談話コーナー

美術館見学の小学生の手紙から

佐原市立佐原小学校 四年生

美術館のみなさんお元気ですか。
わたしたちも元気で運動会の練習をいっしょうけんめいやっています。

この間、わたしたちの足の時はたいへんお世話になりました。
また、たくさんのおでむかえありがとうございます。

わたしたち、美術館の見学は、はじめてだったのでうれしかったです。
たてものが大きくりっぱ

で、中は、矢印の絵、少女の絵、昔からの写真などとてもわたしたちにはまねのできないようになりっぱな作品ばかりが館内いっぱいになりました。

それに、とくべつなてんらんかいがひらかれていたのがたたくさんの作品を見ることができました。
こんど、またいきたいと思ひます。

お父さんお母さんと、いっしょに行きます。
また、ちがう絵がたたくさん見られるのをたのしみにしています。

さようなら
十月三日
四年一同より
美術館のみなさんへ

各種講座あんなない

・てん刻入門講座

今回は、木や石などの印材に篆書(てんしよ)体で文字を刻することに、印をつくる講習会です。

印は、中国で周時代から存在し、材料は玉や銅などの硬いものが多く、漢時代の頃から現在のようなものになったと言われている。

宋、元時代になると文人の間に収蔵印・落款印・雅印が作られるようになり特に元時代末期には、王冕が花乳石という蠟石のような軟石に彫り始めてから、てん刻は専門家だけの特殊な技術ではなく、文人たちの手で自由に彫られるようになり普及して行った。明時代に入ると多くの大家があらわれ姓名や齋号だけを彫るのではなく、詩文の佳句などを刻して書画に印するなど、鑑賞と風雅の用に供するものとし清の乾隆時代になると書体や彫痕に個性的な雅味を求めて芸術にまで高めた。

我国では、江戸時代初期に戦乱をさけて、来朝した僧心越などが紹介したことに始まり、以後、細井広沢らによっ

て盛んになった。

明治時代に入ると呉昌碩の影響をうけた河井荃盧は、たびたび中国に渡り技術的に研鑽し、てん刻の名手と称せられた。

千葉県では、石井雙石が浜村蔵六・河井荃盧などに師事して、てん刻界の代表的な一人となった。

てん刻は、それを印肉で紙に押ししたもの鑑賞するが、その技法は実用的なものとして、蔵書印・落款印・姓名印などにも応用することができ活用されることが多い。

この入門講座は、てん刻の技法や材料を知り、彫る楽しみ、使う喜びを味わうことができる初心者のためのものです。

日時 昭和54年2月17日

(土) 18日(日)

二日で一講座

午前10時〜午後4時

講師 古川 悟(日展審査員) 一子定

会費 無料(但し、材料費

については、自己負担があります)

募集人員 四十名(多数の

ときは抽選で決定)
会場 千葉県立美術館研究
工作室

申し込み

講座名、住所、氏名、
電話番号を明記し、
往復はがきで、美術
館内普及広報班宛

締め切り 昭和54年1月10
日(水)まで

団体展

(12月) 2月

▽第9回千葉県大学美術連盟

展 12・5〜12・10

▽千葉県新象・独立・モダン
アート合同展

12・5〜12・10

▽第23回子ども県展

12・12〜12・24

▽宮坂会・登龍社書初展

1・5〜1・7

▽日輝会選抜展

1・5〜1・15

▽千葉県立美術館友の会作品
展

1・9・1・15

▽千葉大学教育学部美術科卒
業制作展

1・23〜1・28

▽第13回千葉大学学生書道展

1・23〜1・28

▽第3回子ども造形展

1・30〜2・4

▽第31回千葉県小・中・高校
書初展

来館者

9月	13	宮城県生活環境部県民課三名
10月	16	大分県教育庁文化課
3月	3	沼田副知事、今井県教育長「天折の画家たち」展見学
12月	4	落合朗風門下、東条光領氏 緑化推進委員会より三名、D・ F・マッカラン在日カリフォルニア大学スタディセンター 所長
11月	27	19 埼玉県教育庁美術館準備班 星野県議会議員 ソ連カリニン市長ほか三名 市原県教育委員長
11月	28	東平県教育委員 滝口早稲田大学教授 福島県教育庁文化課 今井県教育長 星野県議会議員 ソ連文化省職員並びに民族歌 舞団一行三十四名 井内文部事務次官、鈴木大臣 官房審議官一行 山口県文化課
12月	11	16 浅井忠像除幕式のため川上知 事ら来賓多数 鈴木勝県議会議員 松浦総理府青少年対策本部次 長ほか三名 和歌山県立美術館二名
9月	1	学芸員実習生と懇談会
2・3	3	洋画実技研修講座
9月	9	9・10 テッサン入門講座
12月	12	12 浅井忠像周辺環境整備打合せ 会
10月	13	13 特別展「天折の画家たち」展 オープン
10月	16	16 特別展映画会 第三回美術を語る会
10月	18	18 洋画実技研修講座
10月	20	20 美術普及棟建設準備委員会 県展三十年史編集委員会 深沢幸雄氏紺受褒賞伝達 講演会「近代日本美術の青春」 講師本間正義氏
10月	23	23 特別展映画会 特別展映画会
10月	28	28 第三十回県展解説会(日本画・ 寄贈樹木植樹式 「秋深」報道関係へ発表会 美術普及棟建設について御意 見を伺う会 第四回浅井忠像建立委員会役 員会 小野具定氏紺受褒賞伝達 千葉県美術館資料審査委員会 第三十回県展オープン
11月	4	4 第三十回県展解説会(日本画・ 寄贈樹木植樹式 「秋深」報道関係へ発表会 美術普及棟建設について御意 見を伺う会 第四回浅井忠像建立委員会役 員会 小野具定氏紺受褒賞伝達 千葉県美術館資料審査委員会 第三十回県展オープン
11月	10	10 美術を語る会 県展買上げ審査会 浅井忠像除幕式 県展反省会 秀作美術展選考会議
11月	13	13 美術を語る会 県展買上げ審査会 浅井忠像除幕式 県展反省会 秀作美術展選考会議
11月	18	18 美術を語る会 県展買上げ審査会 浅井忠像除幕式 県展反省会 秀作美術展選考会議
11月	20	20 美術を語る会 県展買上げ審査会 浅井忠像除幕式 県展反省会 秀作美術展選考会議
11月	28	28 美術を語る会 県展買上げ審査会 浅井忠像除幕式 県展反省会 秀作美術展選考会議